

## 2020 年度高齢部会活動報告

### 1. 活動概要

介護保険サービスは障害福祉サービスと似ているようで完全に同じものではないので、利用される方にとって 65 歳になるときに障害福祉サービスから介護保険サービスへスムーズに移行し利用しやすいものとなるように介護・障害・生活困窮等の制度をそれぞれが知識を深めていく必要があると考え、スタートしました。部会員は障害・介護の両分野に関係する事業所等の職員及び行政職員で構成し、主にケース検討を行いながら、課題の抽出や改善点等を話し合いました。

これまで部会で扱った事例を事例集にまとめるなかで、新たに「家族支援」をどうするかというテーマを見いだせました。世間で言われている 8050 問題が顕在化しつつあり、65 歳以上の親は介護保険サービスの検討を行なえるが、その子どもに障害があるが関わりのある人(相談員)がいない、どう支援していくのかといった課題があります。介護・生活困窮・障害の分野にまたがるケース検討からそれぞれの制度をうまくコーディネートしていくことで解決していくことができれば良いのですが、それだけではなく、地域の中で利用者の方にとってよりよい制度があればいいのではないかと考えています。もう少しこういう制度があればいいのではないかといいことを話し合い、今ある社会資源の活用から新しい社会資源の形成まで考えています。

### 2. 今年度の開催内容

開催回数 4 回

日時	内容
7月6日	今年度の動きの検討、勉強会(利用者負担減額認定について)
9月7日	事例検討会
11月2日	事例検討会
1月18日	(中止)
3月1日	次年度の動きの検討

### 3. 現状と課題

1. 障害福祉サービスを利用していた人が65歳になり介護保険サービスへ移行するさいに、それぞれのサービスの違いから同じサービスを受けることができないことがある。
2. 障害をもっている人が高齢になり、これまでどおりの生活をおくることができなくなる
3. 高齢の親と障害をもった子どもが生活をしていくうえで、何らかの支援が必要と思われるが、ご本人たちが拒みなかなか支援をすすめることができない。